

令和7年度 第3回神戸市総合基本計画審議会 議事要旨

開催日時：2025年10月28日（火曜）13時～15時

開催場所：神戸市役所1号館14階 大会議室

出席者：

氏名	所属および肩書
石川 路子	甲南大学 経済学部 教授
伊藤 絵実里	株式会社くさかんむり（元 神戸地域おこし隊）
稻垣 賢一	一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 理事
岩田 かなみ	株式会社W SoWelu コミュニティマネージャー
小野セレスタ摩耶	同志社大学 社会学部 准教授
嘉納 未来	ネスレ日本株式会社 執行役員（コーポレートアフェアーズ 統括部長）
佳山 奈央	La vie est belle 株式会社 代表（サード・プレイス PORTO を運営）
河南 忠和	神戸市会議員（自由民主党 幹事長）
客野 尚志	関西学院大学 総合政策学部 教授
佐合 純	iC 株式会社 代表取締役
品田 裕	神戸大学大学院 法学研究科 教授
高瀬 勝也	神戸市会議員（公明党）
中村 浩一郎	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部 部長
ながさわ 淳一	神戸市会議員（日本維新の会）
服部 孝司	公益財団法人神戸市民文化振興財団 理事長
飛田 敏子	認定NPO法人コミュニティサポートセンター神戸 事務局長
平田 恭子	西日本旅客鉄道株式会社 理事（近畿統括本部・兵庫支社長）
村川 勝	一般社団法人兵庫県中小企業家同友会 代表理事
森本 真	神戸市会議員（日本共産党 団長）
よこはた 和幸	神戸市会議員（こうべ未来 団長）
和田 真理子	兵庫県立大学 国際商経学部 准教授

欠席者：

浦島 理恵	インスタグラマー
小林 鮎美	連合神戸地域協議会 副議長
中野 みゆき	特定非営利活動法人 Oneself 理事長
山下 裕子	全国まちなか広場研究会 ひと・ネットワーククリエイター／広場ニスト

（敬称略、五十音順）

1. 開会 司会 企画調整局 山本副局長

- ・資料説明、確認

2. 議事（1）市民意見収集の反映について

＜事務局＞

- ・資料2に基づき説明

＜会長＞

- ・本題に入る前に、前回決定した方向性について、追加の修正案がある。24ページの下から2段目「郊外とニュータウンの交流」という表現を、「市街地への交流」と変更すること、また説明文に「自然と調和するまち」などを加えてはどうかという提案があった。特に異論がなければ詳細な表現は事務局と検討し、改めて審議会で報告したい。
- ・20ページの意見反映例について議論したい。意見集約の方法など、何でも結構なので、ご意見をいただきたい。

＜委員＞

- ・「ジャズの音色」が惜しい表現で一番多いが、若い世代のワークショップでも「神戸がジャズの街」であることを知らない方がいた。「ジャズ」という言葉を残すことで、若い人に新鮮な驚きや興味を与えられると思う。「ジャズと心地よい音色」のように表現してはどうか。

＜委員＞

- ・ジャズのイベント等に深く関わっている方から、「若い世代が知らないからこそジャズの文言は残してほしいが、ジャズだけ取り立てるのもどうか」という意見があった。「ジャズをはじめとする」など、ほかも包含するような言い方ができると良いのではないか。

＜委員＞

- ・9月に国際フルートコンクールと国際音楽祭が開催され、神戸市内全域でジャズも含めて様々な音楽イベントが行われた。さらに「神戸六甲ミーツ・アート」や「下町芸術祭」も開かれており。神戸には音楽以外にも多彩な文化芸術があり、その豊かさを反映できれば良いと思う。

＜委員＞

- ・神戸に移住してきた際、デザイン都市・神戸、創造都市を掲げていることが魅力的に感じた。アート・音楽など、クリエイティブな街という表現が入ると良いと思った。

＜委員＞

- ・SNSのコメントで、帰省時に汽笛が聞こえると「神戸に帰ってきたな」と実感する、という声に多くの共感が寄せられていた。文化にはジャズや演劇、アートだけでなく、自然の音なども含まれていると感じた。それらをどうまとめるのかが課題である。

＜委員＞

- ・ワークショップでは「神戸がジャズの街」というのは知らず、「自然の音の方が良い」という意見になった。ジャズという文言を入れるのであれば、今後10年で自然にジャズが流れるまちづくりをしていくのかどうかも関係するのではないかと思う。

＜委員＞

- ・神戸には様々な音があるので、反映例の「心地よい音色」で十分だと思う。また、デザインや芸術を入れるなら、「港町の歴史と文化」のうしろに「芸術」と続ける形が考えられる。

＜委員＞

- ・「心地よい音色」という表現は唐突に感じる。「ジャズをはじめとする」など例示をして神戸らしさを保つつ、「心地よい音色」にとつながるようにしてはどうか。

＜委員＞

- ・「音色」からジャズや汽笛など様々な情景が思い浮かぶ。文字の素晴らしいは行間を読めるところ。あまり多くを詰め込むよりも、あとは読み手側の想像力に委ねるのも良いのではないか。

＜委員＞

- ・「ジャズの発祥の地神戸」は残した方がいい。もしジャズを残すなら、駅や百貨店でジャズを流すなど施策として取り組むということも考えられる。それが将来的には観光開発の政策につながる可能性もある。

＜委員＞

- ・文章の流れから、あえて「ジャズの音色に身をゆだねる」と入れる必要があるのか疑問だ。

＜会長＞

- ・「心地よい音色に身をゆだね」は、削除してもよいのではないかという意見だ。

＜委員＞

- ・Z世代とのワークショップでは、ジャズという言葉を入れることは、方向性②の「五感を刺激する体験」を具体的にイメージできると好意的だった。ほかの魅力で神戸の独自性を出しにくく中、音楽で特色を打ち出すのも大事ではないか。もしジャズを入れるなら、2030ビジョンの計画も含めて、広報や施策に反映するといったことも考えられる。

＜委員＞

- ・「心地よい音色」は唐突な印象。汽笛の方が神戸らしい文化として幅広い世代に根付いている。除夜の鐘の代わりに汽笛を聞くことや、様々なイベントのときに汽笛を鳴らすことは神戸独自の文化なので、「港町の歴史と文化」に対応する音として、汽笛は良いのではないか。

<委員>

- ・多くの意見を取り入れるほど、無難な表現になってしまふ。神戸らしさを打ち出すなら、「ジャズ」などの具体的な言葉を盛り込まないと、強い文章にはならないと思う。
- ・「食は、自然の恵み」も、唐突感がある。

<会長>

- ・他の委員からも意見をいただきたい。

<委員>

- ・「心地よい音色」では、何の音色か分からぬ。歴史と文化を象徴する「何かの音色」であるべきだと思う。

<委員>

- ・この計画案を見たとき、ジャズの要素が魅力的だと感じた。無難な表現になりがちな基本計画の中で、ジャズが入ることでフックがかかって良いのではないか。

<委員>

- ・「心地よい音色」より「ジャズの音色」の方が、神戸らしさを象徴する良い表現だと思う。

<会長>

- ・ジャズを残した方がいいという意見が多いが、2つ懸念がある。
- ・音楽は人それぞれ好みが違うので、「ジャズ」と特定することへの反発が出る可能性がある。
- ・基本計画内で「ジャズ」と明記するのであれば、「10年後に向けた振興策を」というのは当然の発想。だが、そうなると他分野とのバランスが崩れるのではないかとも感じる。「ジャズ」という言葉を入れるのであれば、神戸らしさを強調する場合や、他都市との差別化のために入れるのはどうか。取り除くことも選択肢だが、魅力がなくなるかもしれない。

<委員>

- ・神戸はジャズ以外にも様々な発祥の地だが、特定のものだけを強調すると「自分の好きなものはどこ?」という不満が出る可能性もある。ジャズを伝統芸能として守る方針なら記載も必要だが、好みが多様である以上、現状のままで、行間で読ませる表現が良いのではないか。

<委員>

- ・ジャズかクラシックか、神戸牛かぼっかけか、などの議論をしだすときりがなくなる。神戸らしい文化的豊かさを表すキーワードとして「ジャズ」は良いと思う。ジャズを入れることで他都市との差別化ができ、歴史ある文化の魅力をより伝えられると感じる。

<会長>

- ・ジャズの施策を約束することはできないのではないか。

＜西尾局長＞

- ・ワークショップでも意見は二分している。特に若い世代は神戸がジャズ発祥であることを知らない人が多い。一方で、神戸らしいインパクトのある要素を入れたいという思いもある。しかし、そうすると「自分のまちの話ではない」と感じる人が出てくる懸念もあるので、判断が難しい。万人が共感できる表現としては「汽笛」などが適しているかもしれない。
- ・施策的な議論は基本計画決定後の実施計画で行うため、現段階では方向性を定めていただきたい。

＜委員＞

- ・会規則には「出席委員の過半数でこれを決して」とあるため、意見が分かれる場合は多数決で結論を出すのも筋ではないか。

＜会長＞

- ・総意を取り入れれば特徴がなくなる懸念もあるが、審議会としては委員全員がほぼ一致して満足できる運営を目指したい。私としては、ジャズという言葉は軽めに残しつつ、汽笛や波の音などの素敵な提案を並べて例示的な扱いにすることで自由度を保ちたい。事務局に文章案を作成してもらいたい。

＜委員＞

- ・その方向で良いと思う。ジャズや汽笛、波の音、人の足音など、さまざまな音が重なって「神戸の音の風景」を作っていると考えてはどうか。「サウンドスケープ」という言葉もあるが、もう少し柔らかく「音の風景」と表現するのが良いかもしれない。

＜会長＞

- ・できるかどうかは分からぬが、ジャズや汽笛などの具体的な例示のあとに「音の風景」といったような言葉でまとめるといいのではないか。その方向で整理してもらいたい。
- ・次に、「私たちの神戸を愛する心によって」という表現について、主語「私たち」を入れた方がいいか意見が分かれている。ご意見を伺いたい。

＜委員＞

- ・「私たちの」より「人々の」が良いと思う。主体的に行動することは大事だと思うが、「愛する」という言葉は特別なので、「私たち」とつてしまふと押し付けがましく聞こえる印象があり、一昔前の校歌のようだ。「神戸を愛するかどうか」は個々の自由に委ねるべきであり、多様性を担保するなら「人々の」がふさわしい。

＜委員＞

- ・「私たちの」より「人々の」の方が幅広く受け入れやすい表現かもしれない。

＜会長＞

- ・「人々の」を後ろにして「神戸を愛する人々の心」という表現はどうか。

＜委員＞

- ・「神戸を愛する人々の心」の方が違和感なく、非常に良い。

＜会長＞

- ・では、その表現に修正したい。加えて、「文化、芸術」の件についても「芸術」を加える方向で進めていきたい。
- ・次の議題である「都市像のタイトルについて」、説明をお願いする。

2. 議事（2）都市像のタイトルについて

＜事務局＞

- ・資料3に基づき説明

＜会長＞

- ・パブリックコメントに提示するタイトル案を決める必要がある。意見が一致しない場合は、現状のたたき台（網かけの部分）を暫定案として提示する予定であるが、より良いものにするため、新しいタイトル案の思いなどを聞きたい。

＜委員＞

- ・「すべての望みに手が届くまち」という表現は少し言いすぎなのでは。現実の生活に苦労している人々の実感との心理的ギャップがある気がする。

＜委員＞

- ・生きているだけで望みすべてが叶う場所はないのではと感じる。神戸の魅力は、チャレンジや暮らしの「基盤」や「土壤」が豊かであること。「手が届く」という受け身の表現よりも、人の力を育む土壤が神戸にあるということを示したい。

＜委員＞

- ・外部の人がこのスローガンを見たときに「住んでみたい」と思えるかという観点も重要だ。「すべての望みに手が届く」は分かりにくい。「選択肢」や「多様性」といったキーワード（例：「一住百彩」）があると神戸らしいかも知れない。

＜会長＞

- ・「挑戦する」「目指す」といったニュアンスが必要、という意見が1つある。
- ・もう1つは長さの問題。「ひらかれ、つながり、育まれるまち・神戸」といった端的な表現もいいのではないか。

＜委員＞

- ・「育まれるまち」も良いが、子どもの意見で多かった「みんな」という言葉を取り入れ、「みんなでつくるまち・神戸」にしても良いと思う。

＜会長＞

- ・意見を参考にして、より良い案を今後検討する。現行案を暫定的にパブリックコメントに出す方向としたい。
- ・次の議題である「KG I の設定について」、説明をお願いする。

2. 議事（3）KG I の設定について

＜事務局＞

- ・資料4に基づき説明

＜会長＞

- ・基本計画のKG Iについて、全体的な印象や各論について議論したい。

＜委員＞

- ・幸福度指数6.5、生活満足度指数7.0という数値は、市民にとって意味が分かりにくいので、説明が必要ではないか。

＜会長＞

- ・現状値であることを明記し、表現を分かりやすくしたい。

＜委員＞

- ・KG Iで国の指標を使うことについて、国の方針が変わった場合に10年後も運用しているのかという懸念がある。

＜事務局＞

- ・幸福度・生活満足度はアンケート調査なので、万が一国が調査をやめても神戸市で対応できる。

＜委員＞

- ・「地域経済循環率100%以上」という指標も、日頃よく聞く言葉ではない。子どもでも分かるぐらい平易に説明してほしい。

＜委員＞

- ・域経済循環率は耳馴染みがないのは事実だが、神戸市の特徴が分かりやすい指標である。実質GDPや幸福度指数、DIDの比率も含め、数値が示す「まちの姿」を伝える工夫が必要だ。

＜委員＞

- ・100%以上を目指すというが、例えば100%以上110%以内などの上限の設定はないのか。

＜事務局＞

- ・上限の設定は今のところ考えていない。関西の特徴は、大阪・京都・神戸がそれぞれ 100%を超えて共存している点である。このバランスを維持することが目的である。

＜委員＞

- ・地域経済循環率は地域の特徴を示すものであり、単純に高ければ良いという性質のものではない。あくまでも G D P の成長率と併せて見ることが重要。

＜委員＞

- ・幸福度・経済・人口の 3 つの指標には関連性があると考えるのが良いのではないか。

＜事務局＞

- ・幸福度や生活満足度はすべてを包含しているので、3 つの指標を並列して出すのが望ましい。

＜委員＞

- ・研究でも 3 つの指標は相関関係があると確認されている。幸福度が下がった際に何が問題かを考えるために、人口や経済の指標も見ていくという意図である。

＜委員＞

- ・幸福度指数 6.5 や 7.0 がよく分からないので、この数値を他都市と比較することはできるのか。

＜事務局＞

- ・幸福度は都市間比較には適さない。

＜会長＞

- ・各自治体の中での推移を見るのが正しい用い方である。

＜委員＞

- ・人口減少トレンドにある中で、G D P 、経済循環率、まちの規模を維持し、若者の転出超過を解消するという目標は、極めて野心的であり、大賛成である。10 年間、覚悟をもって取り組みたい。

＜委員＞

- ・人口指標の D I D 地区の比率を維持するという点について、市街化調整区域の人口減少や集落機能の維持という、都市近郊・農山村の努力を拾える指標も検討いただければと思う。

＜委員＞

- ・神戸は都会の暮らしと郊外の暮らしの両方を実現できるまちであり、近郊の農村の生活利便性を維持するという意味でも、野心的な目標ではあるが、DID 地区比率を維持することは重要。そういう意味が分かるような、指標の説明を加えてみても良いのではないか。

<会長>

- ・今後のK P I 設定やパブリックコメント文の中で反映していきたい。
- ・次の議題である「パブリックコメント案について」、説明をお願いする。

2. 議事（4）パブリックコメント案について

<事務局>

- ・資料5に基づき説明

<会長>

- ・パブリックコメント案は、計画本文、K G I の説明、方向性という流れで構成されている。ご意見を求めたい。

<委員>

- ・市民からの意見は自由記入形式で募集するということで間違いないか。

<事務局>

- ・自由記入形式である。特定の設問は設けず、自由に意見をいただく形とする。

<委員>

- ・本文構成についてだが、都市像、目標数値、方向性の順だと、数値がどこから来たのか分かりにくい。方向性に対する目標数値という形で見せた方が分かりやすいのではないか。

<事務局>

- ・K G I は 10 年後の都市像を数値で表したものであり、方向性に連動するものではない。すべての方向性に關係する総合目標であるため、現行の構成で進めたいと考えている。

<委員>

- ・先ほど発言した「野心的な目標」という点を、文章中にうまく反映してもらい感謝している。コンパクトにまとめながら、思いのこもった内容になっている。

<会長>

- ・K G I の箇所については、専門家の意見を踏まえて分かりやすい表現を心がけ、それ以外は基本的にはこの案でパブリックコメントに出す方向とする。
- ・本日の議論は以上とする。委員各位の貴重な意見に心から感謝する。それでは進行を事務局にお返しする。

3. 閉会

<西尾局長>

- ・本日は長時間にわたり熱心な議論をいただき感謝申し上げる。市民の方、委員の皆様のご協力もいただきながら、5万1,000人から意見を聴取し、それらを踏まえて目指すべき都市像を整理してきた。多様な意見を統合するのは容易ではないが、できる限り反映させていきたい。
- ・今後はパブリックコメントを経て、来年1月15日に再度審議会を開催し、答申案を検討する予定である。本日の議論を踏まえ、適切な文章をたたき台として提示したい。